

中学生 ワークシート シリーズ ②

氏名 _____

※普及センター、情報センターにて画板の貸出を行っています



問1

第1展示室 / 8B

ここは縄文～弥生時代の貝塚。人々が食べていた様々な動物の骨や貝殻、植物が見つっています。展示してあるものを見て、あなたならこれらの食材を使って、どんな料理をしてみたいですか？自由に想像してみましょう。

例: セタシジミのおみそ汁 / クマ肉で焼き肉

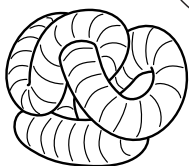
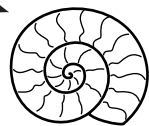
()
()
()



問2

第2展示室 / 17A & 2階ギャラリー

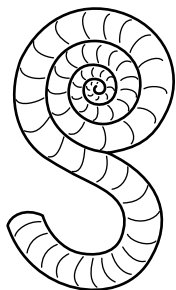
アンモナイトというと、こんな形を連想しがちですが、中にはとても変わった巻き方をする仲間もいます。下のアンモナイトを探して、名前を書きましょう。



こんがらがったひものような面白い姿。ところで私の名前、何から名付けられたと思う？

2階ギャラリー(階段上がってすぐ)にいます。

名前 _____



「？」のかたち？楽譜の「ト音記号」に似ている？淡路島からも発見されているよ。

名前 _____



問3

第3展示室 / 21B

昆虫の中には、身を守るために敵の目をごまかすものもいます。次のような作戦で敵をだましている昆虫にはどんなものがありますか？展示から答えてもいいですが、ここにはないので知っているものがあったらそれも書いてみましょう。

・植物の葉や枝などにまぎれて隠れるもの _____

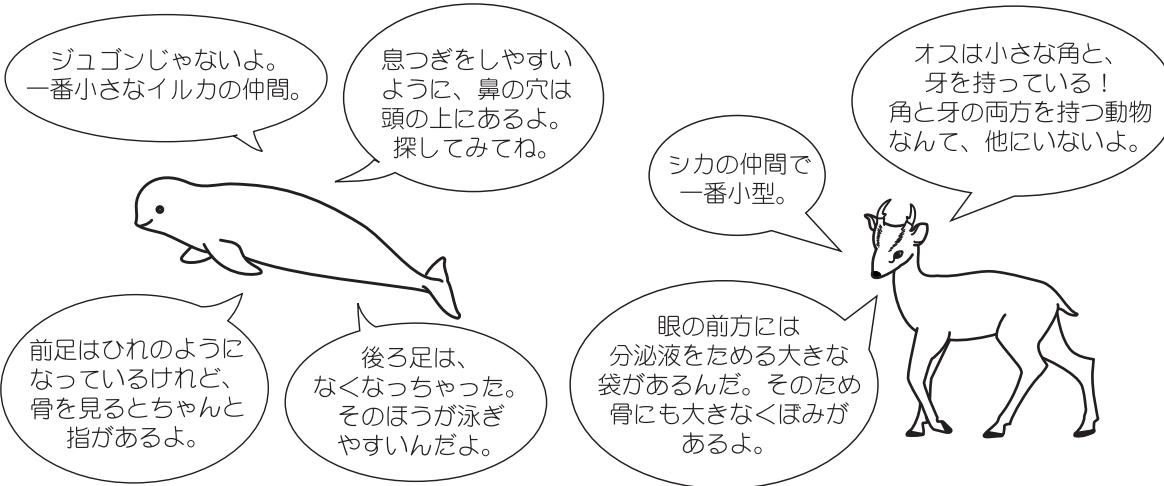
・大きな目玉模様で敵をびっくりさせるもの _____



問4

第3展示室 / 25B

～骨格を見て、どんな動物だったか想像してみよう～
ここにはたくさんのホニウウ類の骨格が並んでいます。下の動物のセリフと骨格標本を見比べて、どの動物のことを指しているか考えてみましょう。



ジウゴンじゃないよ。一番小さなイルカの仲間。

息づぎをしやすいように、鼻の穴は頭の上にあるよ。探してみてね。

オスは小さな角と、牙を持っている！角と牙の両方を持つ動物なんて、他にいないよ。

シカの仲間が一番小型。

眼前方には分泌液をためる大きな袋があるんだ。そのため骨にも大きなくぼみがあるよ。

前足はひれのようになっているけれど、骨を見るとちゃんと指があるよ。

後ろ足は、なくなっちゃった。そのほうが泳ぎやすいんだよ。

名前 _____

名前 _____



問5

情報センター
(博物館のむかしの建物)
大阪の自然誌展示室
淀川のカモ類・大阪のカモ類

長居植物園の池には、秋から春にかけてたくさんのカモ類が来ています。はく製をよく見て、下の鳥に色を塗りましょう。そのあとは、植物園に行って本物をじっくり見てみましょう。

春になっても残っているものもいます。しっぽのカーブもポイント。

マガモ

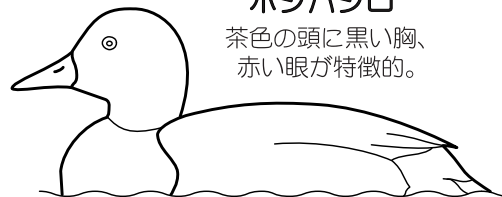
緑の頭に黄色いくちばしが目印



※大阪の自然誌展示室のカウンターに色鉛筆を置いてあります。
※イラストはすべてオスです。

ホシハジロ

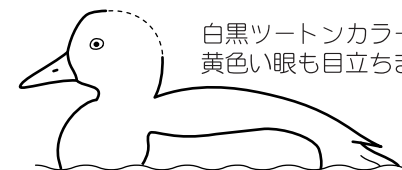
茶色の頭に黒い胸、赤い眼が特徴的。



キンクロハジロ

頭に注目。ねぐせ(??)があります。描き加えてみよう。

白黒ツートンカラーが目印。黄色い眼も目立ちます。



先生の 知識 シリーズ ②

ワークシートの
つかい方

対象・・・中学生

- 問題をB5両面に印刷して下さい。
はくぶつかんマップ（B4二つ折り）に挟んで持ち歩くこともできます。
- 館内を見学しながら記入してください。
その後、野外観察に使えるものもあります。
- 普及センター、情報センターにて画板の貸出を行っています。

※混雑時は館内でのワークシートのご利用をご遠慮いただく場合があります。
利用可能な時期につきましては事前に係員にお問い合わせ下さい。

問1 第1展示室 / 8B 森の宮貝塚

大阪市中央区にある森の宮遺跡は、縄文時代中期から近世に至る複合遺跡です。縄文後期のマガキ貝層の上に、縄文晩期～弥生時代のセタシジミ貝層が重なっており、たくさんの貝殻にまじってけものや鳥、魚などの骨が発見されています。この問題を通して、展示を漠然と眺めるだけでなく、見学者自身が当時の生活に思いを馳せていってほしいと思います。料理に関しては、当時の生活に厳密にこだわらず、家庭にある調味料の使用なども含めての自由な発想でいいかと思えます。

問2 第2展示室 / 17A アンモナイトの海 & 2階ギャラリー

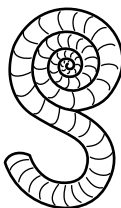
アンモナイトは中生代に繁栄した頭足類（イカ・タコの仲間）です。殻は軟体部を保護したり浮力やバランスの調節をしたりしていました。そしてこの殻は、普通は渦巻き状に巻いていますが、中生代の最後の時代、白亜紀になると、巻きがほどけたり、塔状やJの字状、棒状を示すものなど、変わった巻き方のものが出てきました。これらは「異常巻き」と呼ばれていますが、奇形や病変などではなく、平面あるいは立体的に非常に規則正しい巻き方をしています。

ここではその中でも変わった巻きをしている2種類に注目してみました。ニッポニテスは、異常巻きの中でも独特の形状をしています。100年程前に日本で発見され、その名前も日本からとられています。プラビトセラスは渦巻きの最後に巻きがゆるんだ上で逆方向に巻いています。四国から淡路島・和泉山脈にかけて露出する和泉層群から産出していますが、残念ながら大阪からはまだ発見されていません。

解答



名前 ニッポニテス
(展示: 17A)



名前 プラビトセラス
(展示: 2階ギャラリー)

問3 第3展示室 / 21B うそをついて身を守る

多くの動物が、昆虫を餌にしています。昆虫にとっては、それらの天敵が見つかるかどうかは命に関わる問題です。そこで、虫たちは見つからないような、または見つかったも逃げられるような工夫を凝らしています。

エダシヤク（ガ）の幼虫やナナフシは、体の形と色が小枝に似ていますし、クジャクチョウやアケビコノハは、鳥におそわれた瞬間に後ろ羽根にある目玉に似た模様を見せ、鳥がひるんだ隙に飛び去ります。直径1cm以上の目玉模様は、鳥にとっての天敵であるワシタカ類やけもの目を連想させる効果があるようです。

解答

- 植物の葉や枝などにまぎれて隠れるもの
トビモンオオエダシヤク（幼虫） トゲナナフシ など
●展示以外：コノハチョウ エダナナフシ など

- 大きな目玉模様で敵をびっくりさせるもの
クジャクチョウ アケビコノハ

●展示以外：フクロウチョウ（展示: 23） タテハモドキ（展示: 「海岸の昆虫」） など

問4 第3展示室 / 25B けものの骨格と生活

ここでは多様な生活をするホニユウ類の骨格を展示しています。これを見ると、共通点として頭―首―胸―腰―尾の骨がひとつづきとなり、これを前脚・後脚が支えているのが分かります。相違点としては、生活に合わせて多様化した眼の位置や歯の形、指（蹄）の形などを比べてみてください。この展示では、それぞれの動物の写真やイラストはありません。全身骨格を見て、どんな動物だったのかを考えてゆくと、展示の見方も面白くなると思います。

問題に出てくるスナメリとキヨンはあまりなじみのない動物です。知らない動物として通り過ぎるのではなく、セリフに出てくるヒントを元にどんな動物だったのか想像してみてください。

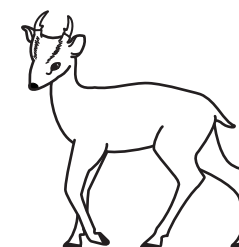
スナメリはイルカ類の中で最も小さく、体長160cm程、日本近海でも見られるイルカです。イラストでは頭が丸く口先も伸びていないので、標本の頭骨と形が違って見えますが、頭骨の額部分に大きな油の塊が乗っかるので外見は丸い頭に見えます。後脚は退化していますが、痕跡的な骨が筋肉の中に埋もれています（これはイルカ・クジラ類に共通しています。24Fのナガスクジラの標本にもついていますので確認して下さい）。

キヨンは小型のシカ類で、体高40cm程です。目頭部分にある分泌腺が発達し、袋状になっているため目が4つあるように見えることからヨツメジカとも呼ばれています。オスは目頭や指の間などから出る分泌液で盛んににおい付けをします。台湾・中国原産で、日本では房総半島で野生化しつつあります。

解答



名前 スナメリ



名前 キヨン

問5 情報センター / 大阪の自然誌展示室 淀川のカモ類・大阪のカモ類

秋から春先にかけては大阪の公園に様々な渡り鳥がやってくるので、バードウォッチングするのにいい季節です。この時期に飛来する冬鳥の中で、水鳥は身近な公園では比較的体が大きくじっとしていることが多いのでバードウォッチングのきっかけとしてふさわしい鳥です。長居植物園の池にも、留鳥も含めて多くの水鳥（カモ類・サギ類・カワウなど）が生息しています。ここではそれらの中から肉眼でも観察しやすい鳥を紹介しています。

なお、博物館でも色鉛筆の用意はしていますが、あらかじめお持ちになることをおすすめします。見学後には、ワークシートを持って、植物園の池などで実際に鳥を観察してみてください。